

「Eco列車でいこう!」 ~第82回 福島、浜通りを行く~ (CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです!)

4月2日(土)青春18きっぷを持って、6:07発新発田行きに乗車した。40分で新発田到着。羽越線に乗換えて、7:11坂町着、米坂線の旅となる。雪解けまもない赤芝峠を抜けると山形県最初の駅「小国」。2両編成の車内は空いている。近くの席には、おかあさんと小さな女の子がお手製のおにぎりをおいしそうに食べている。ほほえましい光景だ。

9:56米沢着。言わずと知れた「牛肉の聖地」。構内の売店では名物駅弁「牛肉どまん中」のノーマルタイプのほかに、しお味やみそ味が売っている。乗り換え列車を待っていると「とれいゆつばさ」が入線してきた。この列車、新幹線なのに車内で足湯が楽しめるイベント列車で、親子連れが足湯を楽しんでいるのが見えた。

奥羽線を山形で乗換えて仙山線へ。途中「山寺」では、頭上高くに「立石寺」と「五大堂」を見ることができ、芭蕉が旅した時代をしのばせる。「面白山高原」という文字通り面白い名前の駅を過ぎると宮城県に入る。だんだんと乗客が増えて、仙台に着いた。

仙台駅は観光客でにぎやかだ。駅ビルには牛タン通りや寿司通りがあって、どの店も長い行列ができていた。

仙台発浜吉田行き。浜吉田は宮城県亘理(わたり)町にある駅で、そこから先の常磐線は震災のために不通になっている。途中駅の亘理駅で降りて代行バスに乗り換える。

「快速」と「各駅停車」の2台のバスが待機しており、意外と乗客が多い。開通に向け工事が進む常磐線の路線を見ながら1時間ほどバスに乗って、福島県の相馬着。ここから原ノ町(南相馬市)までの3駅(18分)は鉄道が復旧している。

2両編成の車内の乗客は少ない。そしてなにか殺風景だなあ。と思っていたら、車内広告が何もなかった。こんな状況のなか、短区間だけでも先行して復旧させているJR東日本の心意気が感じられた。

南相馬の街を歩いた。復興のシンボルとなる小さな横丁などがあり、思ったよりも活気があって人々も笑顔だった。海苔店を見つけて、いつもより多めにお土産を買った。少しでも応援したかった。

原ノ町発16:50、竜田行き代行バス。車内には放射線線量が分かるパソコンが備えられている。このバスは1日2往復だけ、福島第一原発事故の帰宅困難地域を走っている。原ノ町を過ぎてしばらくすると、お店が途切れる。正式に言うとお店はあるが、閉店しており、建設会社の現場事務所になっていることが多い。浪江町に入ると完全に店はなくなり、大熊町に入って帰宅困難地域となった。バスは淡々と走るのみである。左に曲がると「福島第一原子力発電所」という交差点がある。途方もない後始末を行っている作業員の方には頭が下がる。

楡葉町の竜田駅に着いた。ここからはJRが復旧している。すでに夜7時を回り、あたりは真っ暗だ。午後8時すぎ、この列車の終点「いわき」に着いた。

暗い道を通ってくると、「いわき」の街が大都会に見える。ホテルにチェックインして街を歩いた。名物料理を見つけることができず、ラーメン屋で晩酌をした。

翌日、磐越東線で郡山に向った。「昨日、イノシシと衝突しましたので、次の駅まで徐行運転をします。」という車内放送があった。

温かい季節になり、福島の山里でも桜のつぼみが膨らみ始めていた。

